

2024年12月17日

都道府県卓球協会・連盟 御中

公益財団法人日本卓球協会

事業部長 蓑島 尚信

2025年度大会要項 変更決定事項

事業検討会議において審議した大会要項の変更提案について、2024年度第3回理事会にて、下記の通り承認されましたのでご報告させていただきます。

①

全日本社会人卓球選手権大会の試合方法について	
対象大会：全日本社会人卓球選手権大会	
現大会要項	追記・変更事項
(8) 試合方法③ 男女シングルスは準々決勝より7ゲームマッチ、 他は全て5ゲームマッチとする。	(8) 試合方法③ すべて5ゲームマッチとする。

(理由)

シングルス9試合(スーパーシード選手は6試合)、ダブルス7試合(シード選手は6試合)を3日間で実施。

2種目ともに上位進出する選手が多いなか、最終日に7ゲーム3試合はハードすぎるという声があった。また1,2日目において、2種目出場の選手が進行のズレにより試合が重複してしまいスムーズに試合を消化できず、進行全体が滞ってしまっているという現状がある。

それに伴い、来年度に向けてタイムテーブルの大幅見直しもシミュレーション中だが、7ゲームを5ゲームに短縮することでタイムテーブルが緩和され、大会運営的にもメリットがある。

②

全日本卓球選手権大会(ホープス・カブ・バンビの部)の試合方法について	
対象大会：全日本卓球選手権大会(ホープス・カブ・バンビの部)	
現大会要項	追記・変更事項
(10) 試合方法③ 前年度ランキング選手であっても、第1ステージから出場するものとする。	(10) 試合方法③ 各種目とも、 <u>外シードの選手(第1~8シードの8名)は第2ステージからの出場とする。</u>

(理由)

過去3年間の実績で、外シードのリーグにおいて外シード以外の選手が第2ステージに進出したのは10名のみ(10/192名=約5%)である。多くの選手が第1ステージ通過を目標にしているなか、シード選手のリーグに入るかどうかで大きな差が生まれるため、そのような選手たちを救済したい。

また、この変更によって100試合(タイムテーブル2コマ=約1時間)の削減につながり、大会運営の面でもメリットがある。

③

監督・コーチに対する指導者資格および審判員資格の義務化について	
対象大会：全国ホープス卓球大会	
現大会要項	追記・変更事項
	※余白部分に追記 ※適用年度からは（12）参加資格に記載 監督・コーチは、スタートコーチ（「競技別（卓球）」・「ジュニア・ユース」・「教員免許状取得者」）・コーチ1・2・3・4のいずれかの指導者資格および公認審判員以上の審判員資格を取得している者に限る。（2028年度より適用）

（理由）

ベンチに入る方には最低限の資質（インテグリティ、ルールの知識等）を求めている。

なかにはマナーの良くない指導者も散見され、特に子どもの大会においてはこのような資格義務化は重要である。

大会の選定について、【子どもの大会から着手したいこと】と【個人戦より導入ハードルが相対的に低い団体戦から】という理由により全国ホープス卓球大会とした。

2028年度からの適用について、【周知および資格取得のための期間】と【大会申込システムに資格有無の判別機能を導入するためのシステム構築期間】が必要であり、それらを逆算した結果である。

2028年度全国ホープス卓球大会の運用結果を検証し問題がなければ、順次ほかの大会でも資格義務化を取り入れていく予定。

④

全日本実業団卓球選手権大会の参加資格について	
対象大会：全日本実業団卓球選手権大会	
現大会要項	追記・変更事項
	（11）参加資格⑨ ※追記 本大会に出場した代表チームの選手は、バタフライ第〇回全日本クラブ卓球選手権大会の一般の部および30歳以上の部に出場することはできない。（ただし予選会は除く）

（理由）

全日本クラブ卓球選手権大会の要項には全日本実業団卓球選手権大会との重複出場不可の文言が記載されているが、その逆については記載がなかったため。

※以下、全日本クラブ卓球選手権大会の要項に記載された文言

「一般の部および30歳以上の部に出場した代表チームの選手は、第〇回全日本実業団卓球選手権大会に出場することはできない。（ただし予選会は除く）」